

## **令和7年度岐阜県スポーツ推進審議会／スポーツ推進県民会議議事要旨**

**1 日 時** 令和7年11月14日（金）14：30～16：50

**2 会 場** 岐阜県庁 議会棟3階 大会議室

**3 出席委員** 大友克之会長、大城順子副会長、  
浦崎邦子委員、岡本敏美委員、小森崇穏委員、杉山多美子委員、  
猫田孝委員、波賀野里美委員、伏谷美香委員、増田和伯委員、  
矢島薰委員、吉富桂子委員、渡部圭委員、渡邊丈展委員、  
上田和伸委員

**4 会議の形態** 非公開

**5 挨 拶** 渡辺幸司（岐阜県観光文化スポーツ部部長）  
大友克之（岐阜県スポーツ推進審議会会长／スポーツ推進県民会議座長）

**6 議 題**

「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」に基づく主な施策の実施状況

**7 議事要旨**

（事務局）

- ・本会の成立について、岐阜県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に基づき、半数以上の委員の出席があり成立
- ・令和7年度岐阜県スポーツ推進審議会・県民会議新任委員の紹介
- ・議事録署名委員の指名

（1）「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」に基づく主な施策の実施状況

　スポーツ推進計画の5つの柱に沿って、各所属が取り組む令和7年度のスポーツ推進施策の実績について説明

### **I 生涯にわたる健康と生きがいづくりのスポーツ推進**

説明者：地域スポーツ課長、ねんりんピック推進事務局長、体育健康課長

### **II 世界や全国を目指すアスリートの競技力向上**

説明者：競技スポーツ課長

### **III 障がい者の活躍を広げるパラスポーツの推進**

説明者：地域スポーツ課長、競技スポーツ課長、障害福祉課長

### **IV 地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり**

説明者：地域スポーツ課長

### **V 誰もが楽しめるスポーツ環境の整備**

説明者：地域スポーツ課長、体育健康課長

## **8 各委員からのご提言**

### **(渡邊委員)**

- ・ねんりんピックでは全世代が地域全体で関わるという取組を行った。岐阜の強みは大規模イベントを一過性で終わらせらず、終わった瞬間から次に向かって継続して取り組み、さらに広げていこうというところ。
- ・次期スポーツ推進計画には、ねんりんピックの成果を盛り込んでいただきたい。
- ・体を動かしたり、頭を使ったり、競技を観戦したり、楽しんでワクワクするということが、健康長寿に向けた取組の1つの柱になるのではないか。

### **(杉山委員)**

- ・現在の保育の現場では、保育士の意識として、運動遊びが子どもたちの育成に繋がっていくと教えていくことが難しい。
- ・また、今の子どもたちは、自発的には体を動かさない状況になってきている。
- ・このような子どもたちにも目を向けていただき、誰一人取り残さないよう、事業の継続をお願いする。

### **(矢島委員)**

- ・「ねんりんピック岐阜2025」が開催され大変盛り上がったが、このレクリエーション活動を一過性のものとせず、今後も大きく展開できるような支援をお願いしたい。
- ・各地域のレクリエーション協会も高齢化してきているので、世代交代も含めて、今後も続けていけるよう、引き続き支援をお願いする。

### **(増田委員)**

- ・国民スポーツ大会では近年、継続的に好成績をあげており、県の支援や競技団体との連携の成果であるといえるのではないか。
- ・このような中で、課題として、中学生部活動の土日の活動をやる子とやらない子の二極化が進んでいる。
- ・岐阜県は他県と比べて部活動の地域展開が進んでいるが、ジュニア強化の環境が整

わないとトップアスリートの育成にも繋がらないので、中学校部活動の地域展開をいかに進めていくか、次期推進計画で検討いただきたい。

(吉富委員)

- ・進学の際に県外へ行ってしまう選手が多いと感じる。
- ・岐阜県の中で長期に渡って育てていくことがトップアスリートへの近道なのではないか。
- ・指導者を選ぶことのできる自由度が制限されているジュニア選手もいるように感じる。
- ・指導者的人材確保が必要であるので、指導者派遣などの事業を引き続き進めてもらいたい。

(上田委員)

- ・今年行われた全国高等学校選抜大会や全国高等学校総合体育大会などの各種大会において、県内高校生の活躍が目立ち、県の強化事業の成果が表れている。
- ・一方、課題として、少子化による部員数の確保が厳しくなっていることもあるが、働き方改革により、指導者の担い手も減少しており、学校によっては部活動の統廃合を検討する状況もある。
- ・県内の優秀な指導者が高齢化しており、全国で勝つことができる若手指導者の育成が必要である。
- ・中学校部活動の地域展開を進める中で、中学校部活動の強化が置き去りにならないよう取り組んでいただきたい。

(岡本委員)

- ・パラスポーツの裾野拡大、競技力向上について課題と感じている。
- ・全国障害者スポーツ大会の選手選考でも、できるだけ新しい人を選考するなど、裾野拡大の取り組みを行っている。
- ・そのような中、好成績が認められていることはオール岐阜としてやってきた成果の現れだと感じる。
- ・できるだけ多くの人にパラスポーツを知っていただき、スポーツを通じて次の世代に繋げていくための支援を引き続きお願いする。

(浦崎委員)

- ・デフリンピックに関わる岐阜県ゆかりの選手、競技役員が複数出していることについて、県の強化支援の成果であると感じる。
- ・一方で、パラスポーツでも進学や就職を機に県外へ流出してしまうケースも多く確認されている。

- ・来年は愛知県でアジア・アジアパラ競技会が開催されるので、障がい者の活躍を広げるパラスポーツの普及という点で、パラスポーツの魅力を発信する取組を行っていただきたい。

#### (伏谷委員)

- ・御嶽濁河高地トレーニングエリアで合宿を行っている強豪団体から交流の打診があるが、バス代の高騰や移動時間がかかるなど、気軽に高地トレーニングエリアに行くことができないので県からの支援はできないか。
- ・また、陸上競技以外の団体があまり来ていないと感じるため、他の競技の団体を誘致できるといいと感じる。
- ・トップアスリートの出前授業について、子どもたちにとって非常に良い機会であるので、そのような機会をもっと増やしていくと良い。
- ・運動への取組の点で、幼稚園や保育園、小学校の部分が取り残されているのではないかと感じるところもあるが、一方で現場の指導者の頑張りも必要である。

#### (小森委員)

- ・指導者不足の問題に関して、民間企業には、指導力がありすぐに紹介できる指導者がいるが、謝金の観点からなかなかマッチングできないところが大きな課題だと感じる。
- ・指導に関わりたいと考える指導者はいるので、謝金が問題であるのであれば、ボランティアとしてお願いする方法もある。
- ・ただ、指導に関わりたいと考える指導者に指導者バンクなどの情報が届いていないよう感じる。
- ・また、働く世代や子育て世代へのスポーツの推進について、健康経営の視点はとても良いと感じるが、健康経営を知っている経営者が少ない。
- ・RIE KANETO Memorial Cupについても、とても良い大会であり、競技者登録をしていない人も対象としているが、競技者登録をしていない人は、大会の情報を知ることが難しい。
- ・指導者バンクや健康経営なども同じであるが、良い取組をしているので、必要な情報が必要な人に届くよう、積極的に事業の周知を進めていくことが課題。
- ・今年度からスポーツの所管が観光文化スポーツ部に変更されたが、何か変わることがあれば教えてほしい。

→ (観光文化スポーツ部長)

- ・これまで、観光、文化、スポーツはそれぞれの部局で担当していたが、1つの部となつたことで、観光、文化、スポーツが連携し、岐阜県の魅力を発信していく。

### (波賀野委員)

- ・岐阜県は部活動地域展開に向けて、他県よりいち早く地域指導者の育成に取り組まれていたということは、とても素晴らしいことだと受けとめているが、今後地域の指導者の質を上げるためには、研修プログラムの構築が必要。
- ・また、新たに地域で指導する指導者の研修参加が重要であると考えるが、県では教員以外の地域指導者的人数及び参加割合を把握しているか。

→ (体育健康課長)

- ・今数字を持ち合わせていないので、後日回答させていただく。
- ・次期計画に向けてのKPI設定にあたり、指導者や指導参加者人数などの数値だけではなく、保護者、子どもたちのアンケート調査、調査を含めた研修プログラムの構築のための目標値の設定を検討いただきたい。

### (渡部委員)

- ・県として選手強化の取り組みをおこなっても、指導者のハラスメントでスポーツを続けられなくなる可能性もあるので、ハラスメント対策は重要。
- ・県やスポーツ協会などの第3者に相談窓口を設置することが必要であると考えるが、どのような窓口があるのか。

→ (体育健康課長)

- ・県学校安全課に相談窓口を設けており、子どもたち全員に周知できるよう連絡先等を書いたカードを作成し配布している。
- ・また、県スポーツ協会にも相談窓口があるので、そちらも周知していきたい。
- ・ぎふ清流ハーフマラソンについて、岐阜県で実施する大会であるので、岐阜県の方たちや企業から幅広く支えていただくな取組を考えていけると良い。

### (大城委員)

- ・部活動の地域移行の課題として、保護者負担の増加があり、他県では、学校部活動に戻した例もあると聞くので、岐阜県でも参考にしながら考えていく必要がある。
- ・幼児の運動は非常に大事であると考えており、幼稚園の現場、保育士の現場で、子供の体育遊びが大事だと意識していただけるよう、アクティブチャイルドプログラムに取り組んでいただきたい。
- ・また、学童とスポーツクラブを一体化させることは難しいと思うが、子どもたちが体を動かす場を考えていけたら良い。

**(猫田委員)**

- ・県では緊縮財政が続いているが、協議の場でスポーツの重要性を説明していただき、これまでの取組が継続できるよう進めてほしい。
- ・岐阜県議会議員で構成されるスポーツ議員連盟としても、皆さんの要望に応えられるよう尽力する。